

水産種苗研究所の仕事

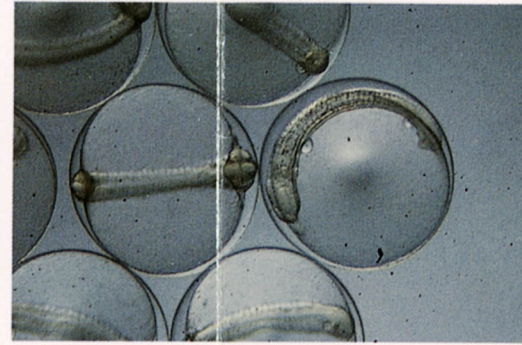
魚を育てる

親を育てて卵をとる

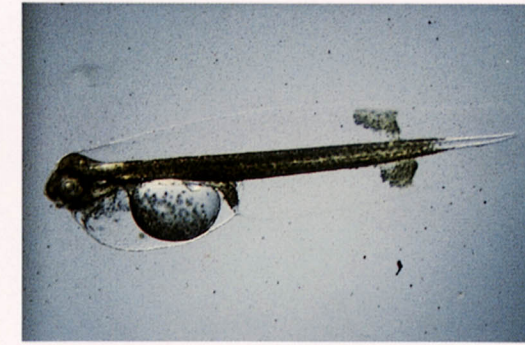
卵を採るために親になる魚（親魚）を育てます。親魚を健康に育てるにはエサや育て方をどうするか、いつごろ卵を生むか、卵の数や大きさはどのくらいか、卵は何日くらいでふ化するかを調査します。



ホシガレイの親魚



ホシガレイの卵
(受精後3日目、直径1.6mm)



ホシガレイの仔魚
(ふ化後5日目、全長6.4mm)

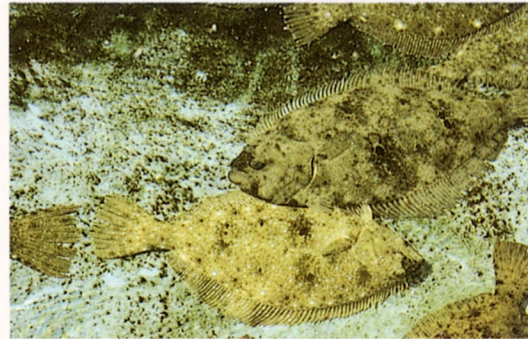


ホシガレイの幼魚

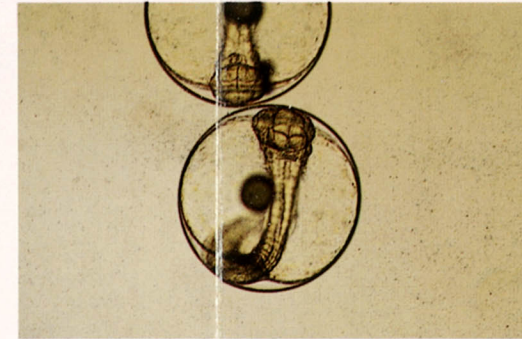
稚魚を育てる

生まれたばかりの魚を仔魚、それより少し大きくなったものを稚魚ちぎょといいます。これらをどんな方法で育てるか、どんなエサをどのくらいやれば丈夫に育つか、どのくらいの期間で大きくなるかといったことを研究しています。

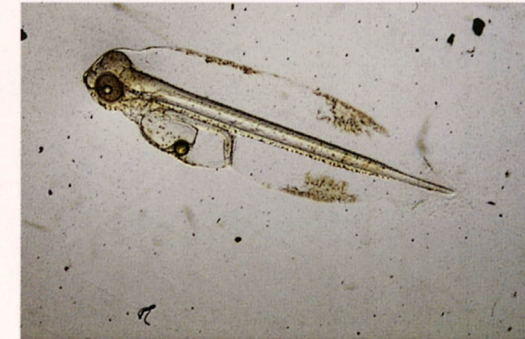
育てた稚魚は海に放します（放流）。大きく育てた方が途中で死んだり他の魚に食べられたりしにくくなるので、海の中の網生簀あみいけすや陸上の池でさらに大きく育てることもあり、これを中間育成ちゅうかんいそくといいます。この方法や、養殖のためにエサや育て方、大きくなる期間についても研究しています。



ヒラメの親魚



ヒラメの卵
(受精後2日目、直径1.0mm)



ヒラメの仔魚
(ふ化後3日目、全長3.2mm)



ヒラメの幼魚

貝を育てる

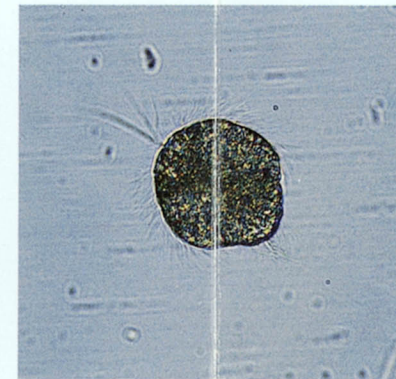
卵を採って幼生を育てる

貝の親は魚と違い卵を生む時期に海から採ってきます。いつごろの時期が卵を採るのに良いのか、どのように卵を採れば良いのか研究しています。

卵からふ化したばかりの貝の子供を幼生ようせいといい、この時期は海水中を泳ぎ回ります。幼生にはエサとして植物プランクトンを与えますが、どのくらい与えれば良いか、育て方はどのようにするか研究しています。



ホッキガイの親貝



ホッキガイのロコフォラ幼生
(受精後12時間目)

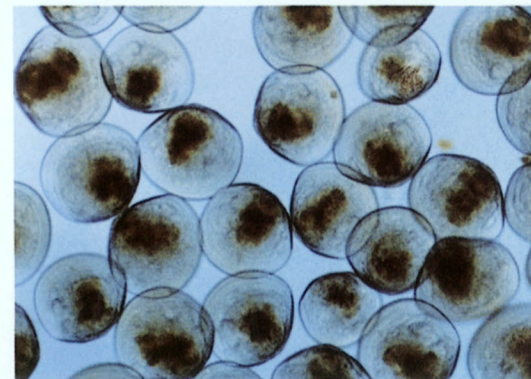


ホッキガイD状幼生
(受精後24時間目)

稚貝を育てる

幼生は大きさが0.2~0.3mmくらいになると泳ぐのをやめて親と同じ生活をするようになります。これを稚貝ちがいといますが、エサの植物プランクトンをどのくらい与えて、どんな方法で育てれば貝が丈夫に育つかを研究しています。

研究所の中で育てることができるのは大きさが2mmくらいまでで、それ以上大きくなるとエサがたくさん必要になるため、エサが豊富な海の中で育てる（中間育成）方法も研究しています。



ホッキガイ幼生
(受精後10日目、殻長0.2mm)

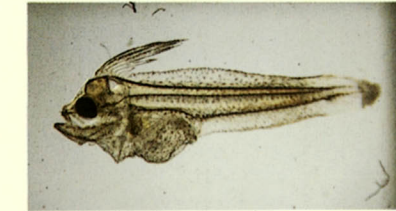


ホッキガイ稚貝
(殻長5~20mm)

豆知識



ヒラメ



ヒラメの仔魚



ホシガレイ



ホシガレイの仔魚

ヒラメもホシガレイも異体類いたいるいと呼ばれますが、左ヒラメに右カレイと言われるように、腹を下にするとヒラメは左側に、ホシガレイは右側に目があります。しかし、生まれて間もないころはどちらも普通の魚と同じように体の両側に目があります。